

9 石炭産業のうつりかわり

福智町周辺では地殻変動でできた古第三紀の地層に石炭が堆積しています。石炭は江戸時代に製塩の燃料などになっていましたが、明治時代には蒸気船の燃料など新たな産業での使用が急増し、多くの炭坑が誕生しました。川ひらた舟を使って川を下り、芦屋沖で海の船に積み替えていました。その後、運搬のために若松や門司港が整備され、洞海湾に抜けるための堀川運河も開削されました。

また、八幡にできた官営の製鉄所で鉄が生産され、明治24年に若松から直方まで鉄道が開通し、次々と鉄道網が整備されていきました。

戦後に石油燃料へ需要が変わり、昭和30年代後半から40年代に次々と炭坑は閉山となりました。



▲石炭を運ぶ蒸気機関車



▲人見橋を走る石炭列車